

実習目標	学生	指導医	指導医サイン
1. 病棟実習：診察・臨床推論（40点） *A,Bをひとつずつ指導医が指定	点	点	
A. 診察			
( )① 頸椎診察			
頸椎の可動性を評価する			
Spurling徴候の所見をとる			
上肢の深部腱反射の所見をとる			
上肢の徒手筋力テストの所見をとる			
Hoffmann・Trennor反射の所見をとる			
( )② 胸椎・腰椎診察			
胸腰椎の姿勢を評価する			
下肢伸展挙上試験の所見をとる			
下肢の深部腱反射の所見をとる			
下肢の徒手筋力テストの所見をとる			
下肢の感覚異常を評価する			
( )③ 脊柱変形診察			
脊柱側弯を視診で評価する			
脊柱後弯を視診で評価する			
胸郭変形（前屈テスト）を評価する			
腹壁反射を評価する			
皮膚症状の有無を評価する			
( )④ 肘・手関節診察			
肘関節の可動性を評価する			
肘関節の発赤・熱感・圧痛を評価する			
手関節・前腕の可動性を評価する			
手関節の発赤・熱感・圧痛を評価する			
手の感覚障害を評価する			
( )⑤ 肩関節診察			
肩関節の可動性を評価する			
肩関節の発赤・熱感を評価する			
肩関節の徒手筋力の所見をとる			
インピンジメント徴候を評価する			
有痛弧徴候を評価する			
( )⑥ 膝関節診察			
膝関節の発赤・熱感を評価する			
膝の内反変形を評価する			
膝関節の可動性を評価する			
関節裂隙の圧痛の所見をとる			
膝蓋跳動の所見をとる			
( )⑦ 股関節診察			
歩容を評価する			
股関節の可動性を評価する			
Patrick試験の所見をとる			
大腿三角の圧痛の所見をとる			
脚長差を評価する			
B. 臨床推論			
( )① 運動麻痺・筋力低下			
運動麻痺・筋力低下の原因と病態生理を説明できる			
運動麻痺・筋力低下をきたす疾患（群）を列挙し診断の要点を説明できる			
運動麻痺・筋力低下のある患者の治療の要点を説明し専門的治療が必要な状況を概説できる			
( )② 腰背部痛			
腰背部痛の原因と病態生理を説明できる			
腰背部痛をきたす疾患（群）を列挙し診断の要点を説明できる			
腰背部痛のある患者の治療の要点を説明し専門的治療が必要な状況を概説できる			
( )③ 関節痛・関節腫脹			
関節痛・関節腫脹の原因と病態生理を説明できる			
関節痛・関節腫脹をきたす疾患（群）を列挙し診断の要点を説明できる			
関節痛・関節腫脹のある患者の治療の要点を説明し専門的治療が必要な状況を概説できる			
2. 外来実習：医療面接（25点） *指導医監視のもと全項目	点	点	
主訴を聞く			
現病歴・既往歴を聞く			
整形外科的生活習慣を聞く			
面接を行うことの了承を得る			
患者さんにわかりやすい言葉で会話する			
3. 手術・検査・処置：清潔操作・基本的手技（25点） *指導医監視のもと全項目	点	点	
A. 清潔手技			
手洗いをおこなう			
ガウンと手袋を装着する			
消毒をおこなう			
B. 基本的手技			
糸を結紮する			
皮膚縫合をおこなう			
4. 共通（10点）	点	点	
実習生としての身だしなみ			
挨拶・自己紹介・コミュニケーション			
出席 日、欠席 日、遅刻・早退 日	総合評価	点	点

メモ

CCの感想や要望

- 1A 5項目 2.5点
- 1B 3項目 1.5点
- 2 5項目 2.5点
- 3A 3項目 1.5点
- 3B 2項目 1.0点
- 4 2項目 1.0点
- 計 20項目 10.0点

グループ、氏名、出席等の日数、計算した各点数を必ず記載  
最終日医局に持参すること（コピーを預かり、この表は返却）